

11月25日正午必着

明石春浦先生書

遠聲霜後樹
秋色水邊村
野徑無來客
寒風自動門
年年別故園

相逢又相別
來去白雲心
惟留霜毫跡
人間不可尋

(良寬)

互いに出会ってまた別る。雲のごとくに去来する。残るはわずか筆の跡。世にも稀なるえらぶつだ。

明石幸子書

遠聲霜後樹
秋色水邊村
野徑無來客
寒風自動門
年年別故園

遠聲霜後樹
秋色水邊村
野徑無來客
寒風自動門
年年別故園

(任蕃)

古墨輕磨滿紙香
硯池新浴照人光

摘趙孟頫詩
篆

古墨輕磨滿紙香。硯池新浴照人光（趙子昂）

軽く古墨をすると机上に香気が満ち、硯池にたたえた水は光を反射させている。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

天高氣清（宋玉）

天高く氣清

秋天高く氣清きこと。即ち秋をいう。

月到天心處 風來水面時
一般清意味 料得少人知

（邵康節）

月天心に到る處 風水面に来たる時
一般清意の味わい 料り得たり人の知ること少なるを

月は天の中心にかかり、風は一陣水面を吹き払う。このすべてさわやかな味わいよ。これを知る人はまれである。

宿巴江（僧栖蟾）

巴江に宿る 僧栖蟾

江聲五千里 瀉碧急於弦
不覺日又夜 爭教人少年
一汀巫峽月 兩岸子規天
山影似相伴 濃遮到客船

江聲五千里 碧を瀉いで 弦よりも急なり
覺えず 日又た夜 争でか人をして少年ならしめん
一汀 巫峽の月 兩岸 子規の天
山影 相伴なうに似たり 濃に遮って 客船に到る

秋の野に花をめでつつ 手折るにも迷ふことあり 人といふもの（伊藤左千夫）

半紙部規定課題A

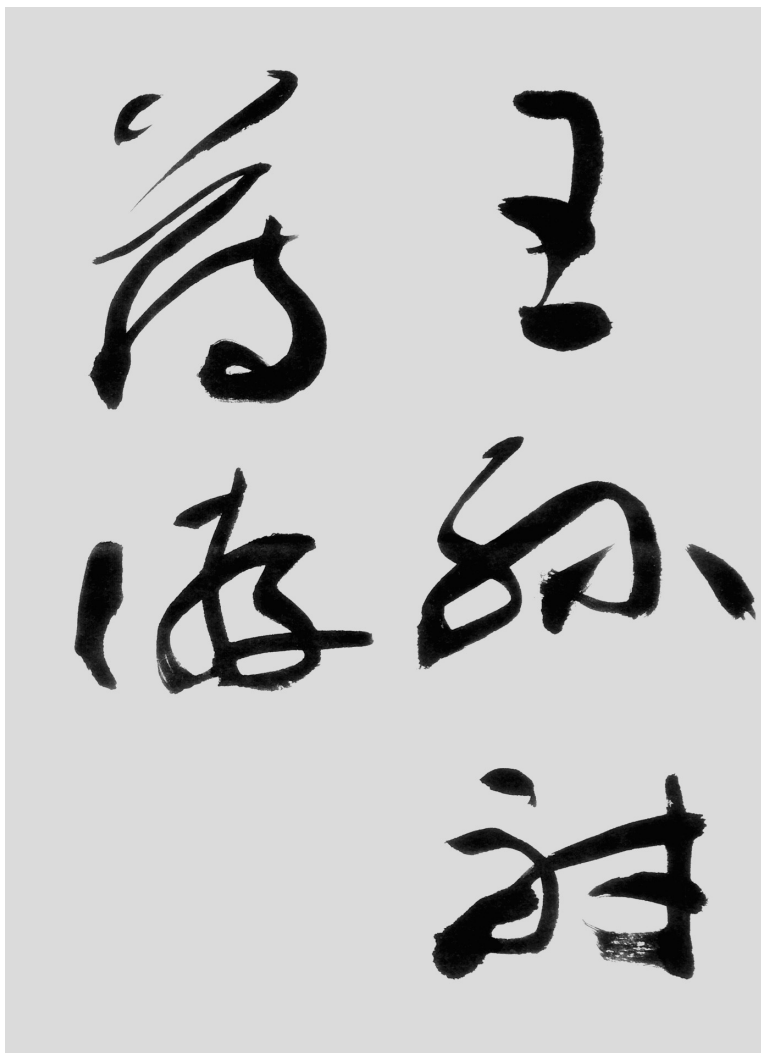
11月25日正午必着

王孫耐
薄游

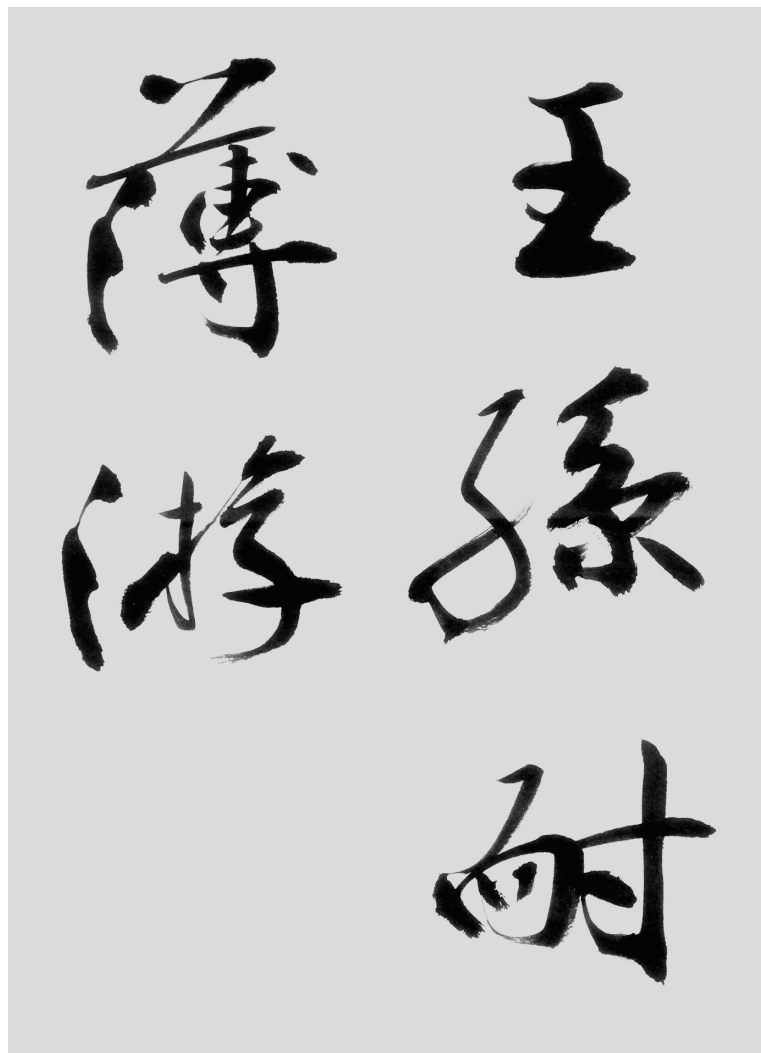
※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



草書

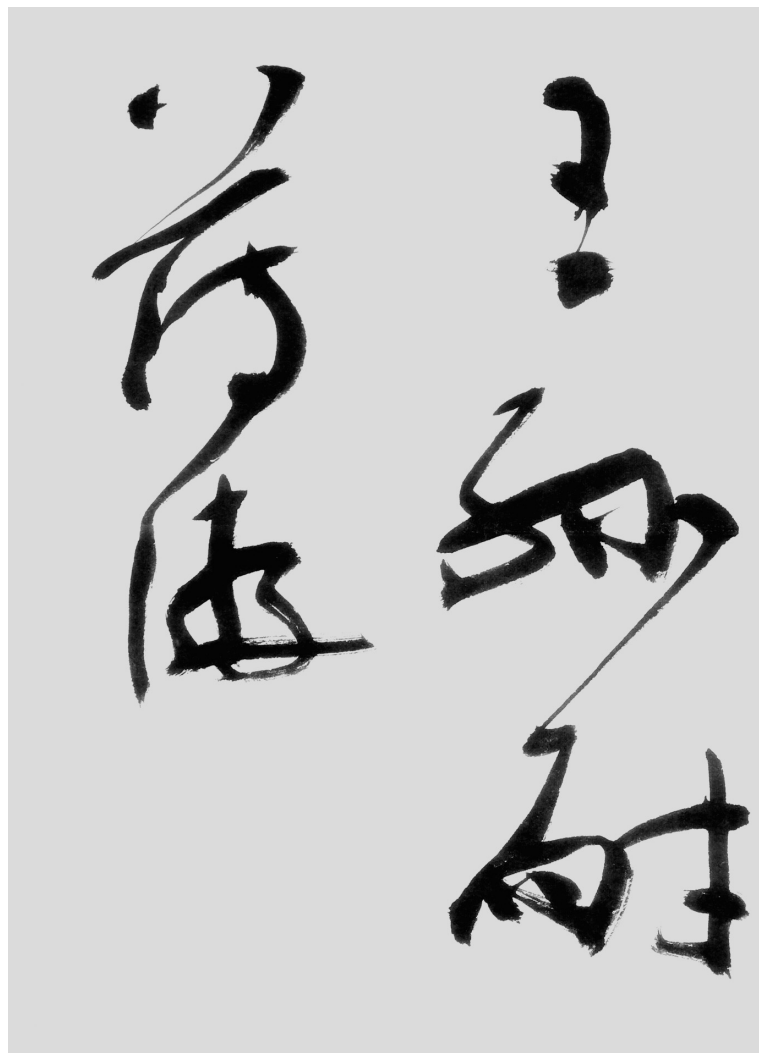


行書

11月25日正午必着



隸書



行草書



篆書

送_下王牧往_三吉州_一

謁_中史君_上叔

細草綠汀洲_一
王孫耐薄遊
年華初冠帶
文彩舊弓裘
野渡花爭發
春塘水亂流
史君憐小阮_一
應念倚門愁_一

王牧_{おうほく}が吉州_{きつしゅう}に往_ゆいて史君_{しくんしゅく}叔_{えつ}に謁_{えつ}する
を_お送_くる

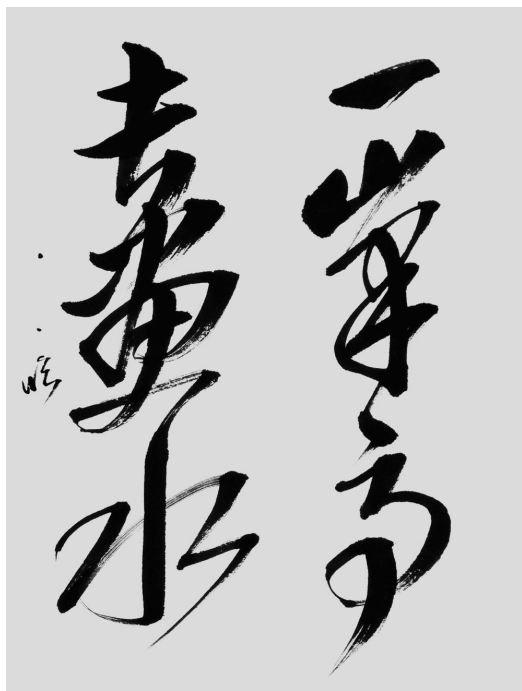
李嘉祐_{りかゆう}

細草_{さいそう} 汀洲_{ていしゅう}に緑_{みどり}に
王孫_{おうそん} 耐_よく薄遊_{はくゆう}す
年華_{ねんか} 初_{はじ}めて冠帶_{かんたい}し
文彩_{ぶんさい} 旧_{もと}と弓裘_{きうきゅう}
野渡_{やと} 花_は争_{あらそ}つて発_{ひら}き
春塘_{しゅんとう} 水_{みづ}乱_{みだ}れつち流_{なが}る
史君_{しくん} 小阮_{しょうげん}を憐_{あわ}れむも
應_{まさ}に倚門_{いもん}の愁_{うれ}いを念_{おも}うべし

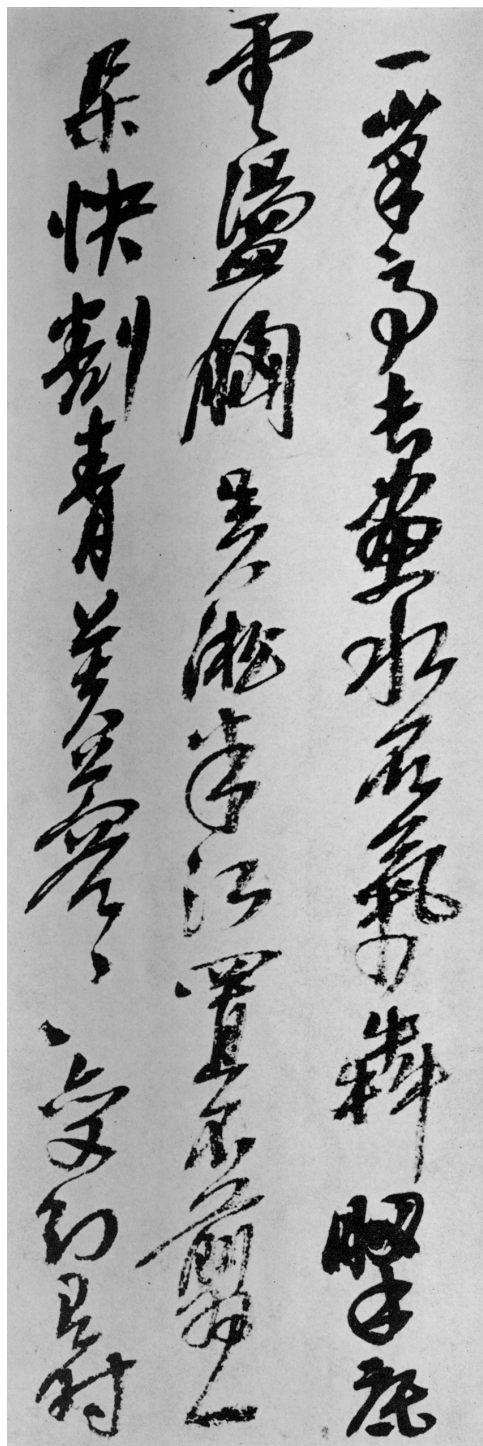
細やかな春の草が、川岸に緑に茂るとき この若者はけなげにも旅に出る
やっと元服して冠帯をつけたばかりのわかわかしさが その文章の輝かしさは遠く父祖の業を受
けつぐ

野中の渡し場に、花は妍を競って咲き 春の堤_{つみ}に水は乱れつつ流れる
太守は甥_{おに}の君を可愛がってくれるだろうが 母堂が心配して待っているのを忘れてはいけない

11月25日正午必着



一筆亭長畫水



一筆亭長畫水石。氣犇腕底雲盪胸。吳淞半江置不翦。一朵快割青芙蓉。芙蓉變幻有時

三浦士岳先生臨書

清 吳昌碩・詩稿

吳昌碩は清朝の道光二四年に浙江省安吉県に生まれ、中華民国一六年に上海で没した。(一八四四―一九二七・享年八四才) 名は俊、長じて俊卿といい、字は昌碩、倉碩・蒼石・缶廬・苦鐵・老蒼などと号した。清末から中華民国の初期は大動乱の時代で、十七才の時に太平天国革命の争乱が郷里に及び、一家は離散した。彼は難を逃れてひとり湖北省・安徽省などを五年間流亡した。二一才の時によりやく故郷にたどりつき、年老いた父と再会し、一緒に百姓をして生計をたてていた。

吳昌碩は、若いときから仕官の道にはまったく興味を示さず、ひたすら文学、芸術に打ち込んでいた。二九才の時故郷を離れ、杭州・蘇州・上海と遊歴し、文学を愈に学び、書を楊峴に、画を任頤に学んだ。一九〇四年に金石書画の研究団体として西泠印社が設立され、彼は推されて初代社長に就任した。久しく蘇州に住み、晩年には上海に定住し、文墨活動に励んだ。篆刻は十代から始め、書は中年以降晩年まで石鼓文の臨摹に没頭したが、王鐸や米元章を習ったといわれる行草書にも篆書の用筆法を取り入れた独自の直線的な連綿のスタイルを作り上げていった。この詩稿は文字どおり詩の草稿であり、下書きである。つまり、書き手の自然な姿が投影されているということであり、吳昌碩の行草書の神髓をうかがい知る手がかりのひとつとなるであろう。

(春濤)

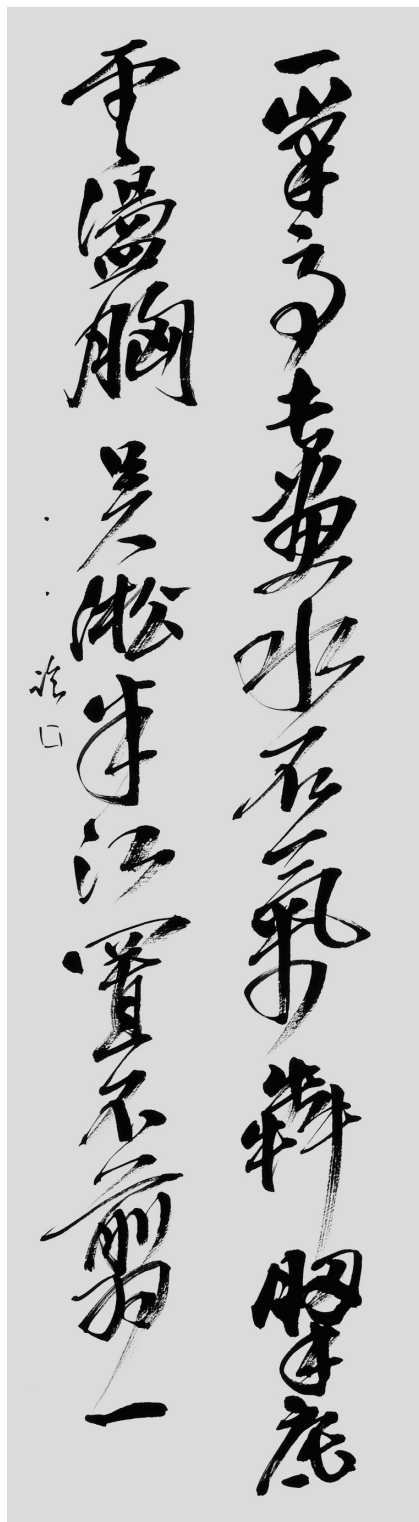


(半紙)

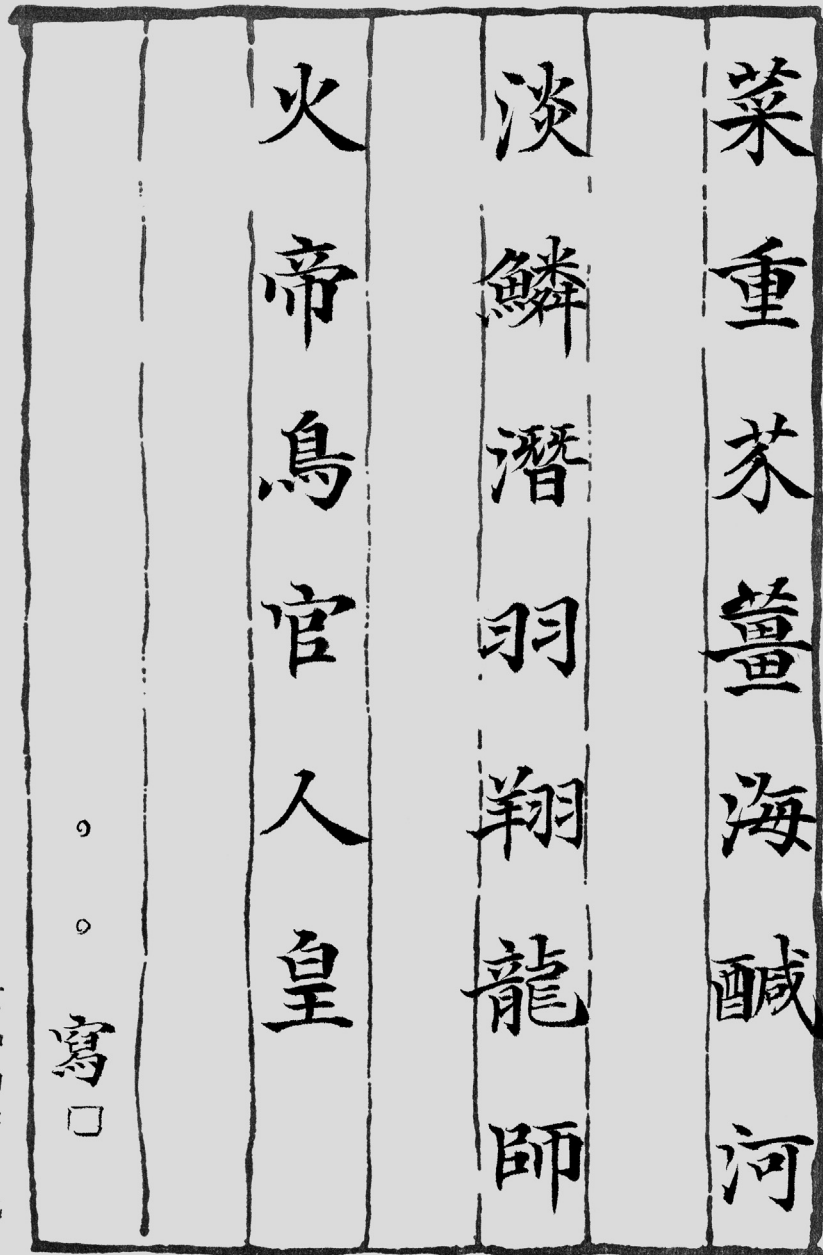
素風 秋の風 梁・元帝「纂要」

《倣書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



一峯亭長畫水石。氣絳腕底雲邊胸。吳淞半江置不翦。一



玄和細字用紙

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ¥550—税込、送料別）

西 墨濤先生書

11月25日正午必着

松永翠舟先生書

名士の収蔵

[illegible]

にしぶくや
布^ふ士^し
多^たか
可^かね
尔^に
為^いる
くもの
かた
多^たより
利^りにつ
耳^{みみ}
ひと
日^ひ多^た
多^たふ
(島木赤彦)

11月25日正午必着

教育部毛筆



雨宮春聲先生書

こんごうりきし
金剛力士

中学一年



菅井松雲先生書

いちょうなみき
銀杏並木

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ゆう や け そら
夕 や け 空

小学五年

榎戸春龍先生書



こ と あき
古 都 の 秋

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



藤田幸春先生書

あ
当 た り

小学三年



細谷春誠先生書

こども^{かい}会

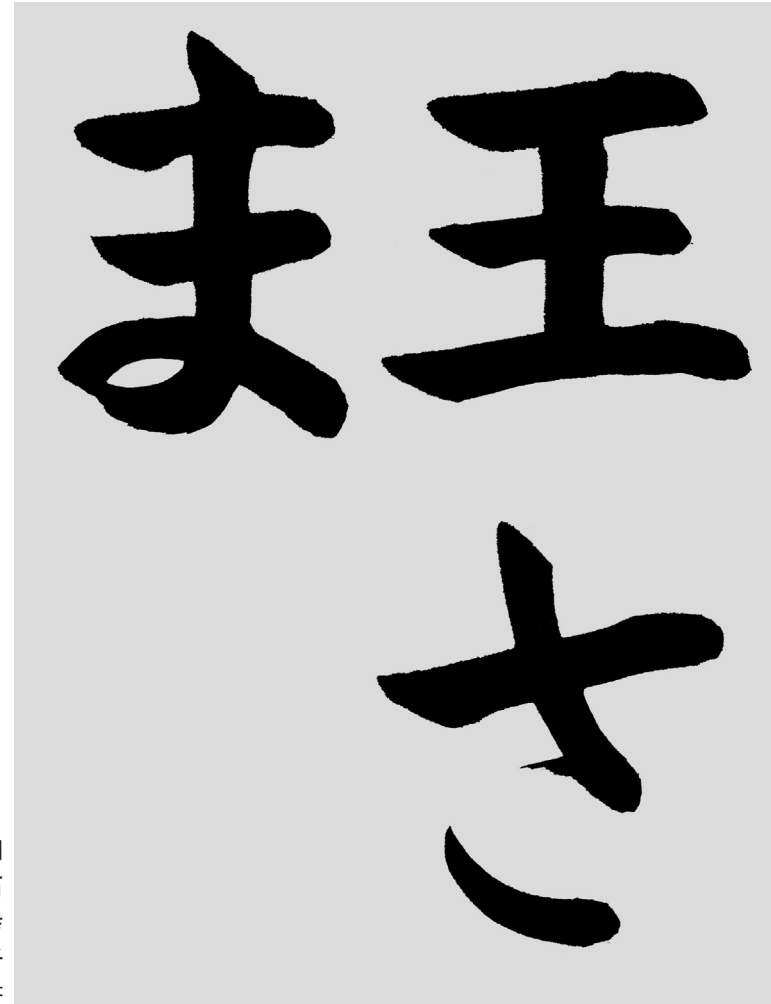
小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

く り 小学一年・幼年



森戸春濤書

ま 王 さ ま 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

十一月は燃えるよう
なもみじが見事です

小学五年

山に降った雨は川と
なつて大地を流れる

小学六年

生命の神秘は大宇宙
に秘められている

中学

霧が晴れた山々は黄
金色に輝いていた

一般(級位)

けしきも今朝の寒さを
驚きぬ露しとと柿の落葉深く
（伊藤左千夫）

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

の	ゆ
	う
あ	や
か	け
と	こ
ん	や
ぼ	け

幼 年

び	た
く	い
	こ
村	が
ま	な
つ	り
り	ひ

小学一年

上	ム
で	サ
ね	サ
む	ビ
り	は
ま	木
す	の

小学二年

森	湖
が	は
色	ん
づ	の
い	づ
た	ナ
	の

小学三年

も	日
か	ぐ
か	れ
や	前
い	の
て	湖
見	は
え	も
る	っ
	と

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。